

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300261
法人名	有限会社 憲信社
事業所名	グループホームみずき (ユニット名 北)
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多1418
自己評価作成日	平成25年8月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成25年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の小学校やボランティアの方々との交流を行い、地域の方々と触れ合える機会を大切にしています。ホームの裏にあるお庭では野菜やお花をご入居者と一緒で育てています。また、看取りの介護も行っており、最後までご自分らしい生活・ご希望に添える生活が出来るよう、かかりつけ医・訪問看護ステーション・介護職員協力の下で行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を中央に南北にH型の2ユニットのホームは、高台の静かな住宅街の一角に位置し、2階が介護付き老人ホームとなっている。南北共用の広く明るいデッキテラスがあり、大きなガラス窓から眺められる緑豊かな自然が広がっている。高齢者が住み慣れた地域で最期までその人らしく暮らせる居場所を作りたいとの代表者の強い思いから設立されたホームである。その思いは理念にもかかわらず、職員全員が実践に取り組んでいる。特に終末期への取り組みには家族や医療機関と密に連携し、家族や利用者の思いに添える支援体制ができています。町内会に加入し、小学生の定期訪問や専門学生の職場体験を受け入れており、今後ますます地域に根ざした取り組みが期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者と地域の方々、職員みんなで支えあい街づくりに貢献する。という理念を掲げ、常に職員の目に付く場所に掲示しています。月に一度理念の意識付けをしています。	利用者と家族が地域のなかでその人らしい人生の継続支援や、グループホームケアのあり方、役割を地域へ発信し地域住民との交流、貢献を理念に掲げている。全職員は会議や勉強会で理念を唱和し、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、毎月回覧板や新聞を入居者と一緒に届けに行くなど、日常的な付き合いをしています。近隣の保育園や小学校にみずき新聞を配布したり、小学校の児童や地域のボランティアの方々との交流も行っています。	地域住民との交流を深めるために町内会に加入し、回覧板やホーム新聞の配布等で利用者が地域と触れ合えるよう支援している。小学生の定期的訪問や専門学生の職場体験等も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族には入所時や来苑時にお話しています。運営推進会議でも議題にして取り組んでおります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、役場の職員・地域の民生委員・地域の代表者・入居者の代表者に参加いただいております。二ヶ月に一度開催し、ご入居者の日ごろの様子報告、困難事例などについて参加者に相談し意見や提案を頂きサービスの向上に活かしています。	2ヶ月1回開催の会議には、介護課職員、民生委員、地域住民、家族代表、利用者らが参加している。運営方針や近況等を報告する中で意見交換を行っている。看取り介護における意見等もいただき、取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、ホームの新聞や利用状況を役場に届け、ホームの実態や考え方を知って頂いたり、困難事例や運営面での課題点等があれば相談し協力いただいています。	地域においてホームを運営していく為には、市町村との連携は重要な関係であり、日常的に情報交換を行っている。制度についての説明や課題などへの取り組みにも協力体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は廃止のマニュアルを作成しており、職員の指導を行っています。しかし、玄関の施錠については、ご家族や運営会議での要望が強いため施錠に至っている。	身体拘束の弊害や「拘束対象となる具体的な行為」などについての研修や取り組みについて勉強会を行っており、職員は身体拘束の弊害をりかいしている。安全面や家族の要望等により、玄関は終日施錠しているが、今後は施錠しない時間帯等を考慮し改善に向けて取り組む予定である。	施錠を希望している家族の不安等にも考慮しながら、身体拘束の弊害等を理解してもらったり、施錠しない時間帯を設けることについて、取り組むことを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を開催し、虐待防止の文章を職員の休憩室に掲示しています。また、入浴時や日頃のご入居者の様子から虐待が発生していないか観察を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に家族・ご利用者に権利擁護に関する制度の活用について説明しており、パンフレットの準備もしています。職員に制度利用のについて、必要な知識を習得してもらうため、勉強会も行っている。	権利擁護に関する制度については、利用開始時や家族の問い合わせに対応できるように職員は勉強会で学び実践できる体制ができている。現在一人の利用者が制度を活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に予想される事故やトラブル等については、事前に説明しています。また契約前にご家族及びご入居者に施設見学を行って頂き、不安や疑問について尋ねるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時に苦情や意見が気兼ねなく言える雰囲気作りを心がけています。また、定期的にご家族にアンケートを送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置しています。	利用者、家族の意見は大切な「お宝」であるとの思いからアンケート送付や玄関に意見箱を設置している。家族の気づき(筆筒の整理)や旅行などの外出をさせて欲しいという意見や要望を実施して運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できるような雰囲気作りを心がけています。会議などでも、積極的に発言してもらい良い意見は運営に反映できるようにしています。	会議や勉強会での意見交換だけでなく毎日の活動のなかで気づきや意見にも対応できる体制ができている。職員から介護用ベッド導入についての要望があり、随時必要に応じて導入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職員の要望は聞くようにしています。また、状況に応じて話し合いの場も設けています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集に当たっては、男女問わず幅広い年齢層で募集をしています。採用された方は、明るく活き活きと勤務しています。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い資格取得についても積極的に推薦し支援しています。	職員の採用に際しては、年齢や性別に関係せず適性を重視している。採用後の職員はそれぞれの特性を活かし、明るく活き活きと利用者向き合えるように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会にてビデオによる人権境域や、話し合いを行い啓発活動に取り組んでいます。	管理者は、行政が作成した人権に関するビデオを借りての勉強会や、啓発活動に取り組んでいる。利用者の尊厳が損なわれるようなことがあると見受けられた場合は、その都度、指導助言し、利用者の人権が守られるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社半年以内に新人研修を行っています。また、施設内で二カ月に一度勉強会を行い介護技術の指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの担当者が集まり、日頃の業務の問題点などの意見交換や事業所の取り組みなどの発表をする等交流の機会を設けサービスの向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学をして頂いたり、こちらから面談に行き、話し合いにてご本人やご家族の不安や要望を聞くなどし徐々に施設に馴染んで頂ける様関係づくりに努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取組と同様、又話しやすい環境作り信頼関係が築ける様努力しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の精神面、身体状況、環境状況を把握し、今どんな支援が必要かを具体的に話し合い見極めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者がご自分で出来ることはして頂くようにしています。また、ご入居者が得意なことを職員に教える等、ともに支えあえる関係づくりに努めています。そして、その人らしさや健康な能力を発揮出来る支援を心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の行事にご家族を招待し、楽しみや思い出と一緒に作れる機会を提供し、ともに支えあえる関係づくりをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくりとす過ごして頂ける様に心配りをしている。また、外出時の支援も行っています。	利用者の人生の継続支援を理念にかかげており、本人の望む馴染みの関係を大切にしている。理美容室への同行支援や、以前居住していた場所への外出支援等、馴染みの人や場所への思いを大切に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間や、一緒に過ごす時間の調節役として、またご入居者同士の会話の橋渡し等関係が上手くいくように支援しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者や家族との関わりを大切に、手紙のやり取りなども行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人とのコミュニケーションを密に取り、希望や意見を把握するように努めています。意思表示が困難な方は、日々の様子や、アセスメント・ご家族からの情報から把握できるように努めています。	会話等でコミュニケーションを図り思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、経過記録を参考にしたり、テレビを見ている時や歌等のレクリエーションをしている時の反応と表情も観察したりして、本人本位の意向に沿ったケアとなるよう努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族より入居前に「聞き取り調査」を行い把握するように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや過ごし方の違いを理解し、個人の出来ることやしたいことを探り、取り入れ出来ることを増やしていくように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族やご本人からは日々の関わりの中で思いや意見を積極的に聞き取るようにしています。	介護計画作成において、本人や家族の意向を踏まえ職員、関係者で話し合い作成している。月に1回モニタリングを行い、介護計画の実施状況の確認をしている。状況に応じて介護計画の見直しも適時行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に、訴えや行動・職員が掛けた言葉・対応・反応等細かく記載するようにしており、介護計画にも活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの宿泊希望時は、寝具や食事などの提供をしている。また、外出時の同行や入院時の面会などの支援もしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員や、近隣の小学校、地域のボランティアの方々に協力いただき支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族同意の上でかかりつけ医の受診を行っています。また、24時間対応での連絡、相談体制が整っています。なじみのかかりつけ医を希望された場合も、支援させていただきます。	月に2回事業所の協力医の往診がある。外部受診は家族の付き添いで対応をお願いしているが、家族ができない場合は職員が付き添いしている。その際事業所と家族、医師で受診の結果等の情報交換も密に行うようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションに入って頂き、医師・介護職員と連携を取りながら、ご入居者の健康管理や状態の変化に応じた対応を行っています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行くようにしており、馴染の顔を見せ不安を与えないように努めています。また、かかりつけ医、入院先関係者、との情報交換も行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合(看取り)の指針を定め、契約時に終末期における医療処置についての対応、職員、家族、かかりつけ医、訪問看護ステーション等、関係者との連絡を密にし情報を共有し今後の変化に備え準備が出来るようにしています。	看取りにおける事業所の指針がある。過去に看取りを経験したことがあり、今後も支援を行う際は状況に応じて関係者と話し合いを持ち、情報の共有や柔軟な対応ができるよう体制を整え取り組んでいく意向である。家族が宿泊できるスペースも確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	半年に一度、救命救急についての研修、実技の指導を受けています。また、緊急時即座に対応できるよう、緊急時対応マニュアル、連絡網等作成しています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時の避難経路や場所の見取り図も掲示しており、連絡網も作成しています。定期的に避難訓練も実施しています。	年2回消火訓練や避難訓練が行われている。マニュアルに地域の方の協力者名が記載されているが、訓練の際、実際に地域の方の参加が難しい状況である。今後も運営推進会議や民生委員の協力を得て訓練に参加いただけるよう取り組んでいく意向である。また、備蓄面は2日分の食料が準備されている。スプリンクラーを設置している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や、入浴排泄等の対応についての勉強会を行っています。記録など個人情報等秘密保持も徹底しています。	入浴や排泄時、は特に羞恥心への配慮を十分にしており、声掛けのトーンなど職員間で気づいたことはお互いに注意し合っている。管理者もミーティングや研修において注意喚起を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者との会話の時間をもち、さりげなく好みを聴いたり、出来るだけご本人の思いに沿った生活が出来るよう支援しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活リズム、過ごし方を把握し、お一人お一人のペースを尊重しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、訪問理美容サービスに来ていただいている。また、希望があれば他の美容店の付き添いも行っています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に二回、ご入居者の希望メニューを作り、ご入居者と職員が同じテーブルを囲み同じメニューを食べる機会を設けています。また、準備や片づけも無理の無いよう協力して頂いています。	利用者全員ではないが、できる方には無理がないよう職員と一緒に盛り付けや片づけをしている。職員は介助したり、同じテーブルで利用者と一緒に食事を楽しんでいる。献立も利用者の要望を取り入れるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態や水分・食事の量・体重をチェック・記録しその方に応じた水分量・栄養バランスを確保しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性をすべてのスタッフが理解し、それぞれの方の状況に応じた支援を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄パターンをチェック・記録し見守り・声掛け・介助を行っています。	チェック表により排泄状況の把握に努めている。表情等観察しながら日中はトイレで排泄ができるよう支援している。リハビリパンツから布パンツに変わる等、自立支援の成果も出てきている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、おやつにヨーグルトや食物繊維の多く入ったものを提供しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週三回設定しており、ンゴ入居者がリラックスして入浴を楽しんで頂ける様、希望に沿って支援しています。また、入浴日以外でも入って頂ける様体制を整えています。	週3回入浴できる機会があるが、利用者の希望により臨機応変に対応をしている。入浴を拒まれる方には、曜日・時間の変更やタイミングをみて声掛けを図り無理強いすることなく利用者が納得した上で入浴ができるように努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調、習慣を元に安心して休める環境を提供している。眠れない時は、温かい飲み物を提供したり、会話をしたりし安心して眠れるように支援しています。また、日中の活動を通じて生活リズムが整うように支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に二回薬剤師が来訪して、医師から処方された薬の管理、説明を行っています。また、薬の説明を個々にファイルして職員が常時確認できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の得意な能力を発揮できるよう支援しています。園芸や・制作・レクリエーション等ご入居者のアイデアを活かせるよう職員と一緒に取り組んでいます。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や体調に応じて、買い物やドライブ等外出を多くして、季節を肌で感じて頂ける様支援しています。また、施設裏のテラス・畑には自由に行き来できるようになっています。	事業所周围の散歩や近くのスーパーまでの買い物に行ったり、ドライブでは花見や田川の炭抗記念館や、車いすで行ける饅頭工場等に外出の機会を設け、閉じこもらないように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名はご自分でお金の管理をされており、所持されていない方も買い物などでお金に触れる機会を設けています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は何時でも利用して頂いている。ご自分でできない方も、とりつき支援しています。また、手紙に関してもポストに入れるなどの支援を行っています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分は仕切りがないため、ゆったりした雰囲気になっており、キッチン是对面になっているので料理の過程が見えるようになっています。また、テラスは車いすでも自由に行き来でき快適な場所になっている。	みんなで過ごす居間は、大きなウッドデッキにつながっており、庭も広く畑もあり解放感がある。大きな窓からは光が明るく差し込む中、利用者がテーブルで折り紙や工作等を創作したり、ソファで休む等、自由にくつろぐことができるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール奥の畳の間や、所々におかれたソファにて気の合った利用者同士で談話したり、一人でくつろげる空間を設けています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきていただくようにしており、馴染のものを置くことでご本人が居心地良く過ごせるように工夫しています。	居室は広く明るい。利用者自身で掃除したり職員の支援により清潔に維持されている。利用者個々が思いの品である御仏壇や家族写真を持ち込み、居心地よく過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のレベルを把握し、配慮した支援を行っています。また、トイレを突き当りに設置し、ドアの色を変えるなどわかりやすくなっています。		